

第11期 第10回国立市ごみ問題審議会 議事録

日時 令和2年(2020年)1月20日(月)午後2時00分～午後3時00分
場所 国立市役所北庁舎 第7会議室
出席者 山谷会長、十松副会長、江川委員、河合委員、隈井委員、高麗委員、信澤委員、堀越委員、山崎委員(委員は50音順)
事務局 橋本生活環境部長、中村ごみ減量課長、豊島清掃係長、志田清掃係主任、岡田清掃係主事

【議事要旨】

1. 国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況の評価について

資料に基づき、国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく行政による進捗状況(2018(平成30)年度実績)の評価について事務局から説明した。

【山谷会長】(1)家庭系ごみの減量化・資源化について、ご意見をお願いします。

全体として、「審議会の評価等」は審議会としての要望のようなかたちでまとめられています。

【山崎委員】16ページの①分別の徹底の「審議会の評価等」の「チャットボットの導入」とは、具体的にどのような話だったのでしょうか。

【隈井委員】東京都の助成についてのセミナーがあり、そこで青梅市が東京都の助成を受けてごみの分別に関してのチャットボットを導入しているという話があったという話でした。国立市でも検討はしているが、価格が高く、導入は難しいとのことでした。

【山崎委員】チャットボットという言葉があまり認識されていないかもしれないのと、チャットボットを導入して何をすることが見えにくいでしょうか。

【隈井委員】例えば「チャットボット(自動質問応答システム)の導入」としましょうか。

【山谷会長】そうしましょうか。

【十松副会長】青梅市でのチャットボットの評価はどのようなのでしょうか。

【隈井委員】そのときのセミナーでは青梅市はまだ導入途中なので、その効果はわからなかったのですが、同様の事例として、市川市がチャットボットを導入していて、市民からはよい評判を得ているようです。

【山谷会長】②集団回収の充実ですが、新聞購読者が減っていて、雑誌も売れない中で回収量が維持されているということは、有料化の影響もあったのかとは思いますが、それなりに評価できるのではないかと思います。

【山谷会長】(2)事業系ごみの減量化・資源化に移りたいと思います。

事業系ごみ処理手数料の引き上げの状況について報告をお願いします。

【事務局】今年の4月1日から事業系ごみ処理手数料を1キロあたり27円から42円に引き上げるという条例の改正が昨年12月に決定しました。これから排出をする事業者とごみの収集を行っている許可業者に改正の内容を案内していきたいと思っています。

【山谷会長】事業系ごみ処理手数料が4月から引き上げられるということで、かなり大きな減量効果

が出るのではないかと思います。

有料ごみ処理袋は非常にきめ細かく設定されているかと思います。他市では可燃、不燃、プラくらいだと思います。

【山谷会長】（3）収集・運搬について、ご意見をお願いします。

【隈井委員】表現の問題ですが、25ページの③安全かつ安定的な収集体制の確保の「審議会の評価等」の「分別の徹底を周知してほしい」が、作業員に分別の徹底を周知してほしいと読めてしまうので、「同時に市民への危険ごみの分別の徹底を周知してほしい」としたほうがよいと思います。

また、次の26ページの④戸建住宅における収集方式の柔軟な対応の「計画内容（概要）」の「相談が増加することがしているため」は、「相談が増加しているため」でしょうか。

【隈井委員】24ページの②収集運搬による環境負荷の低減の「審議会の評価等」は、I o Tを導入して、何をするかを入れたほうがよいでしょうか。

私は藤沢市の事例をあげて、ごみ収集車がほかのこともやることで、ごみ収集車がたくさん距離を走ったからといって、それが環境負荷になるとは言えないという話をしましたが、たしか、ごみ収集車が今どこを走っているかを把握したり、収集ルートを最適化するということだったと思います。

【山谷会長】情報収集システムですよ。

【隈井委員】そうですね。「I o Tの導入による情報活用も視野に入れ」としましょうか。

【山谷会長】そうしましょうか。

【山谷会長】（4）中間処理についてはいかがでしょうか。

他の自治体は総資源化率が落ちているところが大部分なのですが、国立市は横ばいですね。

【山崎委員】新聞は新聞屋さんが回収するので、市の回収には出していない人が多いのではないのでしょうか。

【隈井委員】④中間処理施設の延命化の「2018(平成30)年度実績」ですが、具体的にどんな延命化のための適正な施設更新などの調査や、修繕をやったのかがわからないので、施設が作られてから何年たっているかということも合わせて、今後はもう少し詳しく書いたほうがよいと思います。

【山谷会長】環境センターとクリーンセンター多摩川は竣工後、何年ぐらいたっているのでしょうか。

【事務局】環境センターは30年で、クリーンセンター多摩川は21年です。

【山谷会長】焼却施設の耐用年数は大体25年から30年と言われているので、そこまで使えるように修繕をしているのでしょうか。次回からは詳しく書いてもらいましょう。

【十松副会長】多摩川衛生組合のような一部事務組合とかでは修繕とか建替の積立はしているものなのでしょうか。

【山谷会長】しているところが多いですね。

【隈井委員】国立市の計画の中で、小中学校とかの建て替えの計画はあったかと思うのですが、クリーンセンター多摩川は国立市の直営ではないので、その計画の中には入っていないのでしょうか。

【事務局】公共施設の管理計画の中には入っていないです。ただし、ちょうど今、クリーンセンター多摩川の延命化の議論を各市ですしているところです。

【隈井委員】その詳細な中身までは書く必要はないと思うのですが、話し合いを始めているということを実績に書いたほうがよいと思います。

【山谷会長】最近の傾向として、生ごみのバイオガス化などと組み合わせて、さらに焼却施設を小さくするというをやっています。

町田の焼却炉は40年以上たっていたのですが、新しく建てる際に、炉の容量は小さくして、バイオガス化もあわせて導入しました。最近できた京都の清掃工場もやはり大規模なバイオガス化を導入しました。

町田や京都はかなり都市化していて、生ごみの分別排出は難しいので、生ごみを機械選別し、乾式のバイオガスの貯留槽に入れて、残渣物は隣の焼却炉で燃やして、電力としてサーマルリサイクルするという発想です。

【隈井委員】町田は今の施設の敷地の中に新しいものをつくるだけのスペースの余裕があるのでしょうか。普通は、敷地を確保するため、もとの焼却炉を廃棄して作り直さなければいけないと思うのですが、ごみの焼却は続けつつ、スムーズに移行できるようなものなのでしょうか。

【山谷会長】町田はわりと広い敷地があったのですが、敷地が狭い場合は近隣の市に応援を頼まないといけません。今そのようなかたちで進めているのが小平、東大和、武蔵村山の衛生組合で、建て替え期間は近隣の組合とか自治体に支援を頼むため、ごみ量を減らさなければいけないということで、有料化を進めています。

【山谷会長】（5）最終処分についてはいかがでしょうか。

23区でも最近エコセメント化を始めましたが、多摩地域の場合は焼却残灰の全量をエコセメント化して、できたエコセメントをできる限り自治体の公共事業で使っているというところが違うかと思えます。特に意見はないでしょうか。

【山谷会長】（6）制度、施策の充実等についてはいかがでしょうか。特に意見はないでしょうか。

2. 答申書（案）について

【山谷会長】2ページの折れ線グラフを見ると、国立市のごみ量は多摩地域の平均になかなか追いつかないところなのですが、ここで事業系ごみ処理手数料を引き上げると追いつくのではないのでしょうか。

災害時のごみ処理マニュアルの作成については、どのような状況でしょうか。

【事務局】これから庁内検討会を立ち上げて、各部署の意見をいただきながら、来年度いっぱいに向けて作成したいと考えています。ここで狛江市や調布市で多摩川の水害があったので、実際にどのように対応をしたのかということも聞きながら、反映できればと考えています。

【隈井委員】おととい市長のタウンミーティングがあって、防災がテーマだったのですが、下水処理施設が冠水した場合、想定している被害に対してどのくらい復旧の時間がかかるのかわからないということでした。し尿処理もごみ処理の対象だったかと思うのですが、災害ごみを処理するというだけでなく、そういうところまで考えないといけないかと思いました。

【十松副会長】下水処理場が冠水したら、下水は使えなくなるのでしょうか。

【事務局】今は時間50ミリ対応なのですが、時間100ミリの雨が降る可能性もあり、そうすると下水道で処理できなくなり、内水となる可能性はあります。また、多摩川の水位が上がると、そこに流せなくなり、また内水の氾濫につながってくるという問題もあります。

【山谷会長】他に意見はないでしょうか。答申書（案）については、若干の修正の意見が出ましたので、それを修正して各委員に確認していただき、再度修正したものを私が確認して確定させるということよろしいでしょうか。

3. その他

(1) 答申の日程について

答申は予定どおり令和2年3月23日（月）の13時30分から行うこととした。

— 了 —